

Green Brave

10th Anniversary

GAZOO Racing GR86/BRZ Cup 第2戦



2022年8月20日(土)~21日(日)
スポーツランド SUGO(宮城県村田町)

GR86/BRZ Cup プロフェッショナルシリーズ

予選時のアクシデントから復活した吉田選手が9位入賞

GB ドライバーの吉田選手と 86GB キャンプの地頭所選手が出場。プロシリーズのエントリー台数は37台です。予選日(土曜日)の天候は曇。プロシリーズの予選時に雨予報が出ており、コンディションの予測がつかない状況。しかし、コースインと同時に雨が降り出し、あっという間にウェットへ。誰もがアタックを急ぐ中、吉田選手がコースアウト。スポンジバリアに衝突し、赤旗中断となります。8分間の中断のあと、残り10分で再開。吉田選手の160号車はピットで店舗メカニックの応急処置を受け、再度コースインしています。雨は弱まっており、どの選手も周回を重ねるごとにタイムが上がっていく状況。吉田選手のクルマは完全な状態ではないものの、最後のアタックで1分46秒912をマーク。予選12位につけ、明日の決勝に望みをつなぎました。地頭所選手は赤旗中にクルマのセッティングをドライ寄りに変更してアタック。しかし、滑りやすい路面に足をとられ、満足なアタックができないまま予選は終了。ベストタイムは1分47秒025で、吉田選手のすぐ後ろ、予選13位となりました。



決勝日(日曜日)の天候は晴。朝7時に車両保管が解除され、チームはリペアエリアで160号車の修理にかかります。サスペンションまわりのアーム類を交換し、傷んだボディをレースで出られるように修復。作業はわずか1時間半ほどで終了し、高いチームワークを見せつけました。決勝は13時半過ぎから13周で行われ、地頭所選手が12位、吉田選手は13位でオープニングラップを終了。翌周には2人の順位が入れ替わり、周回を続けます。吉田選手は前日の影響を感じさせない走りで、8周目に10位、11周目に9位までポジションアップ。翌周に順位を下げますが、10位をキープしてチェッカーを受けました。地頭所選手はトップドライバーたちと激しいバトルを展開。ジャンプアップこそできませんでしたが、貴重な経験を積み、13位でフィニッシュしました。レース後、上位の選手1名が失格となったため、吉田選手の正式結果は9位、地頭所選手は同12位。第3戦は9月24日~25日、十勝スピードウェイで行われます。



#160
埼玉トヨペット GB BS GR86

吉田 広樹

決勝：9位

予選12位 (1分46秒912)

■予選後：一発のタイムを出すつもりで走り始めたのですが、自分のミスでクラッシュしてしまい、スポンジに当たってしまいました。走れなくなるほどのダメージではなく、チームが赤旗の間に応急処置をしてくれたおかげで、予選に復帰することができました。本当に感謝しています。タイヤのいいところがかみ合わない中、どうにか走ってあのタイムを出しました。

■決勝後：昨日メカニックが頑張ってくれたおかげで予選を走れ、グリッドも獲得できた上でのレースでした。ポイントを獲得し、最低限のところはできたと思います。クルマの機能的な部分はきっちり直っていました。ドライでのレースはいいペースで走れそうな雰囲気があるので、今後は予選からしっかり前につけ、上位争いできるレースをしたいと思います。



#522
GB CAMP BS GR86

地頭所 光

(86GB CAMP)

決勝：12位

予選13位 (1分47秒025)

■予選後：予選開始前、霧雨ぐらいかなと思ってコースインしたら、どしゃぶりでした。赤旗中にチームがダンパーの減衰力を変えてくれ、だいぶ走りやすくなったのですが、なかなかまとめられなかったです。1周しかタイムを出せず、悔いの残る予選でした。まわりがどんどん速くなっているのに自分だけ何もできなかったです。

■決勝後：練習でのペースが良く、期待値が高かっただけに、ジャンプアップできず、心残りのレースでした。前回11台抜きでフィニッシュしているので、シングルはいけると思っていました。予選が良かったらトップ5ぐらいまでいけたと思います。ペースが良いのに何もできない。それがすごく悔しかったです。残りのレースは好きなコースばかりなので、予選で雨が降らなければ、いけると思います。

第3戦は9月24日~25日

十勝スピードウェイ(北海道)

GR Garage 浦和美園

With Green Brave

ヤリスジュービークャンプ

YARIS GB CAMP

GAZOO Racing Yaris Cup

東日本シリーズ 第5戦

2022年8月21日(日)

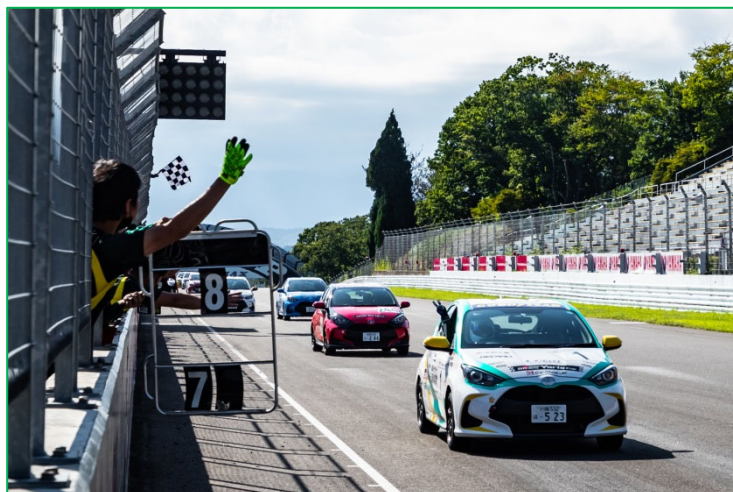
スポーツランド SUGO

(宮城県村田町)

■■■ 2位でフィニッシュするもレース後に大森選手の優勝が確定 ■■■

第5戦は今シーズンの3ラウンド目。ヤリス GB キャンプの大森選手は前戦の優勝により、ランキングトップに浮上しています。エントリー台数は49台。

スケジュールは日曜日に予選と決勝を行う1DAY方式。大森選手は昨シーズン、SUGOで2戦2勝という結果を残しており、自信をもって本番に臨みました。予選は2組に分かれて行われ、大森選手はA組に出場。気温が上がるのを嫌い、先頭から2番目でコースに入ります。大森選手は最初のアタックの際、1コーナーで挙動を乱しながらも1分49秒930のトップタイムをマーク。連続してアタックを行いますが、タイムを更新することができず、ピットに戻ります。この時点で#34 渡辺選手に抜かれ、大森選手は2位。残り5分でピットアウトし、再度アタックを行いますが、1回目のタイムを更新できず。A組2位で予選を終えました。B組の予選後、規定により大森選手の3番グリッドが確定。1位の#34 渡辺選手、2位の#62 松原選手はヴィッツレースでチャンピオンを獲得したことがある強豪ドライバーです。



決勝(10周)は14時35分から行われ、大森選手は好スタート。3コーナーで#62 松原選手のインをとり、早くも2位に上がります。1周目終了時の#34 渡辺選手との差はわずか0.208秒。大森選手は#34 渡辺選手の走りをじっくり観察しながら、仕掛けるポイントを探します。3周目にアクシデントが発生し、セーフティカー(SC)導入。隊列走行が3周続き、6周目からレース再開となります。大森選手はタイミングを慎重に見極め、8周目の4コーナーで#34 渡辺選手のインへ。しかし、完全に抜き去ることができずに、2台は並んだまま走り続けます。#62 松原選手と#244 横田選手もこの争いに加わり、4台での大バトルに発展。大森選手は混戦の中で、一瞬3位に下がりますが、9周目の1コーナーで2位のポジションを取り返し、そのままフィニッシュ。レース後、トップでチェッカーを受けた#34 渡辺選手に走路外追い越しのペナルティが科され、大森選手の繰り上がり優勝が確定。今シーズン2連勝、SUGOでは昨年から数えて3連勝を達成し、チャンピオン争いの最右翼に名乗り出ました。



#1
GB CAMP Yaris
大森和也
(Yaris GB CAMP)

決勝：1位

予選 A 組 2 位
(1分49秒930)
3番グリッドスタート

■予選後：2番手でコースに入り、アタックしました。1コーナーでタイヤをアウト側に落としたような挙動が出て、カウンターをあてるほどでしたが、いくしかないと思いました。セクター2と3はそこそこいい形でラップできたのですが、セクター4ではまわりからコンマ3ぐらい遅れてしまい、1分49秒930というタイムでした。

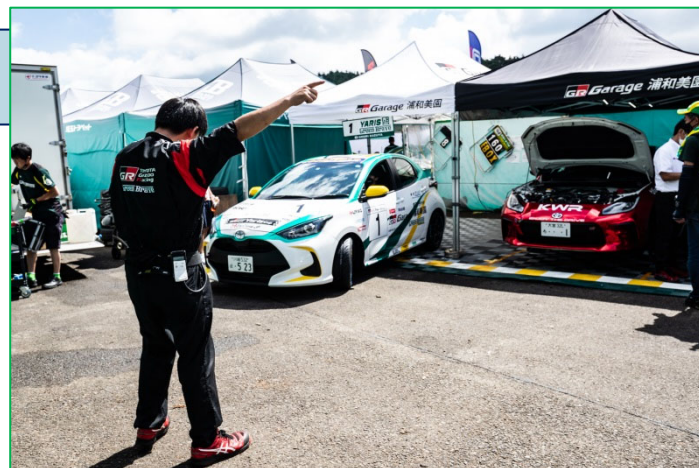
■決勝後：ベストを尽くして戦いました。トップに仕掛けた時は接触するかもと思ったのですが、ちゃんと相手のラインを残して走れました。ただ、仕掛けたときのライン変更が急すぎて挙動を乱し、抜ききれなかったです。渡辺選手は手ごわいです。3位になった時、また下がついていくのかなと思いました。1コーナーで横田さんを抜けたので、気持ちが折れることはなかったです。

GAZOO Racing Yaris Cup
東日本シリーズ ランキング

順位	ゼッケン	ドライバー名	ポイント
1位	#1	大森和也	51
2位	#30	島 拓海	33
3位	#62	松原亮二	27
4位	#19	黒田保男	24
5位	#34	渡辺圭介	21
6位	#244	横田 剛	16

トップ6まで

第6戦 は9月25日
十勝スピードウェイ(北海道)



有限会社アイ・ディ・アイ



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



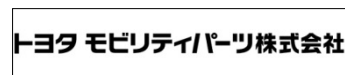
埼群スリーボンド株式会社



株式会社デンソーソリューション



株式会社ドーム



トヨタモビリティパーツ株式会社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



株式会社ブリヂストン



丸和工業株式会社



株式会社リビコー



レカロ株式会社